



学術研究・産学官連携推進本部 産学官連携推進部門  
Tokai National Higher Education and Research Systems

# G-NICE

VOL. 74  
2021.1

Gifu university-Notable Innovation Circle Enterprise

## News Letter

### 特集

#### ● 産学官連携 商品化事例

- ・物理ゲル性能を付与した次世代コンクリートの共同開発
- ・自立起立移乗補助具の動作分析
- ・可搬型ヘリポート用照明システムの開発
- ・革新的な表面処理の共同研究開発

### センター紹介

- ・岐阜大学 微生物遺伝資源保存センター (GCMR)
- ・岐阜大学 科学研究基盤センター ゲノム研究分野

### 巻末

- 展示会等開催・出展報告
- 主な行事予定(2月～5月)

## 特集 「産学官連携 商品化成果事例」

産学官連携推進部門を通じて、さまざまな分野から、企業様と昨年度も423件の共同研究がなされており、これまでの研究などを通じて商品化された事例を4件ご紹介致します。

### 1 物理ゲル性能を付与した次世代コンクリートの共同開発

産

株式会社安部日鋼工業  
岐阜市六条大溝3丁目13番3号  
資本金3億円 従業員519名



株式会社 安部日鋼工業

学

岐阜大学  
工学部化学・生命工学科 物質化学コース  
木村 浩 准教授



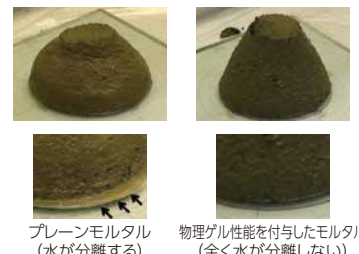
#### 株式会社安部日鋼工業

##### 共同研究にいたったきっかけ

2019年01月に開催された岐阜大学ラボツアーに参加し、「クレイ粒子水分散液」材料技術が展示されているのを目にしたところ、直感的に「これだ!」と感じ、すぐさま木村浩准教授にアプローチしました。クレイ粒子水分散液は、水に粘土(クレイナノシート)成分を加えたもので、流動刺激の有無によってゾル(液体状態)とゲル(固体状態)を往き来し、「物理ゲル」と呼ばれます。その物理ゲルが持つ特殊な性質を、フレッシュコンクリート(硬化前のコンクリート)の性能向上にも応用できるのではないかと考えたのが、木村准教授との共同研究の始まりでした。

##### 共同研究の内容・成果

土木建設の現場で型枠などに流し込むコンクリートは、流動性が低ければ充填作業が難しく、流動性が高いものは高価であり材料分離しやすいことが課題でした。また硬化後のコンクリートの耐久性を高めるために、気体や液体が侵入しにくい緻密な硬化体とする必要があります。私たちが開発した次世代コンクリートは、粘土鉱物であるクレイナノシートをコンクリートに少量混ぜ込みます。すると、静置すると形状を保持し、振動を与えると柔らかくなるという物理ゲルの性能が発現します。固まる前からある程度形状を保持して自立しつつも充填しやすく、コンクリート工事の生産性が高まります。また、クレイナノシートの添加量や振動条件を変えることで、セメントと水の配合を変えることなく流動性を高め、柔らかさを調節することも特徴です。これにより、構成成分を均一な状態で充填できるようになり、材料分離が起こりづらくなります。さらに、クレイナノシートはコンクリート中の余分な水を吸着し、硬化後も内部から外へと緩やかに水分を供給するため、組成物が緻密になって耐久性も高まります。物理ゲル性能を付与した次世代コンクリートは、これまで建設業界が抱えていた課題を解決できると期待しています。そして、道路や橋梁、建設物といったインフラの長寿命化にも大きく貢献できると考えています。

プレーンモルタル  
(水が分離する)物理ゲル性能を付与したモルタル  
(全く水が分離しない)

##### ご担当者のコメント



株式会社安部日鋼工業 技術工務本部 技術開発部長 宮島 朗 様

木村先生に出会うまでは、業界内の狭い世界で課題を解決しようと模索を続けてきましたが、岐阜大学の交流会に参加したことで、従来にはない斬新な発想のコンクリートを開発できました。今後はクレイナノシートの最適な添加量などを検証し、普及に向けたPR活動にも力を入れていきたいと考えています。

##### メディア掲載

日刊建設工業新聞2020年2月28日、中部経済新聞2020年3月2日、科学新聞2020年3月20日、建築技術5月号2020年4月17日



岐阜大学 工学部化学・生命工学科 物質化学コース 木村 浩 准教授

岐阜県内の民間企業と共同で、業界の新たなスタンダードになりうる画期的な次世代コンクリートを開発しました。岐阜県をはじめ東海地方には、株式会社安部日鋼工業様などのような高い技術力をもつ民間企業が数多くあります。大学のシーズとこれら民間企業の技術が融合すると、非常に優れた工業製品ができることを実感しました。今後はこの次世代コンクリートの技術を国内外に普及させ、インフラの長寿命化などへの貢献を目指します。

## 2 自立起立移乗補助具の動作分析

産

株式会社東海技研工業  
中津川市中津川932-325  
資本金1,000万円 従業員87名



株式会社 東海技研工業

ラ・クリップ

学

岐阜大学  
大学院医学系研究科 関節再建外科学先端医療講座  
青木 隆明 特任准教授



### 株式会社東海技研工業

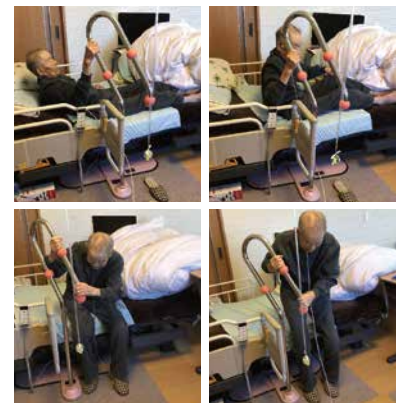
#### 共同研究にいたったきっかけ

弊社の主業は配電盤・板金部品加工等ですが、関係者の実父が股関節圧迫骨折により入院、その後退院するも在宅介助が全介助であったことを受け、その事態を改善すべく、弊社の板金加工技術を活かして対応策を考案しました。試作品でトライしたところ即時に自力で起立し、車椅子への移乗も行えたことから開発を開始しました。開発を進める中でウェルフェア等の展示会に出展した際、福祉業界における専門家に対し新たな福祉用具の特長を理解して頂くには専門機関によるエビデンスが必要との声があり、岐阜県産業経済振興センターへ相談したところ、岐阜大学医学部附属病院の青木隆明特任准教授をご紹介いただき、動作分析を依頼することになりました。

#### 共同研究の内容・成果

従来の据置型手すりはその殆どが「押し型」であり、本製品の「引き型」の手すりは介護用具製品群の中で在りそうで存在しなかった用具であるため、使用時における動作が従来の手すりと比較してどのような違いがあるのかが全く不明でした。そこで、「ベッド手すりの違いによる立ち上がり動作の解析」という内容で、押し型・引き型の二種類の起立補助具について動作のVICONによる解析と同時に、表面筋電図により動作時の大腿四頭筋の活動性を計測して頂きました。その結果、引き型では直線的な重心移動がみられるのに対し押し型では重心の大きな湾曲移動がみられ、又、表面筋電では引き型の方が体重移動が効率的であるため、活動性が平均12.2%減少している

ことが判明しました。結果、引き型の手すりの方が押し型に比べ、力の伝達効率、活動性においても効率的であることが確認されました。本分析成果をもって様々な施設や福祉用具取扱業者への「ラ・クリップ」の説明は、科学的根拠をもって行うことが可能となり、業界における専門家もその効率性を一層の理解をもって体験して頂けることとなりました。また、実際にラ・クリップを活用して頂いている要介護者の方からは、起き上がりや立ち上がり、立位保持や移乗動作が大いに楽になり無くてはならない補助具になった、介助者の皆さんからは介助が楽になり本人もやる気が出てきたように思うなど、ラ・クリップの効率性を改めて認識している次第です。



#### ご担当者のコメント



株式会社東海技研工業 代表取締役 安江 宏 様

動作分析を依頼させて頂いた時点では、従来の手すりと比較して立ち上がりが効率的で楽に出来るという感覚的な自信はありましたが、科学的な根拠は何も無く不安でした。大学では「押し型」と「引き型」という区分をもって動作分析をして頂き、科学的にその効率性が立証されたことは開発担当者全員の大きな自信となり、様々な説明会等において専門家関係者に納得して頂くことが出来、無くてはならないエビデンスとなりました。

#### メディア掲載

CBC「チャント」2020年11月26日、monoマガジン2019年10月2日号、岐阜新聞2019年11月13日、中部経済新聞2019年11月29日、中日新聞2020年5月20日、他多数



岐阜大学 大学院医学系研究科 関節再建外科学先端医療講座 青木 隆明 特任准教授

共同研究において、高齢化社会で、日常生活動作の自立を促し健康寿命を延ばすため、様々なベッド柵や手すりがある中で、主に引き型と押し型の2種類による立ち上がり動作の効率性を検討し、ラ・クリップのような引き型の移乗補助具は、動作解析により、直線的な重心移動がみられ、押し型では重心の大きな湾曲移動がみられ、表面筋電では引き型の方が、体重移動が効率的であるため活動性が低いことがわかりました。このことは引き動作の方が下肢への筋肉の活動性が低く、下肢筋力の利用が効率的であることが示唆されます。ラ・クリップは引き型の中でも、より力の伝達効率、筋肉の活動性においても効率的であるという結果が得られました。

### 3 可搬型ヘリポート用照明システムの開発

産

学校法人ヒラタ学園  
大阪府堺市西区鳳西町3丁712  
従業員約160名

学

岐阜大学  
工学部機械工学科 知能機械コース  
松下 光次郎 准教授

HIRATAGAKUEN  
ヘキサゴン



#### 学校法人ヒラタ学園

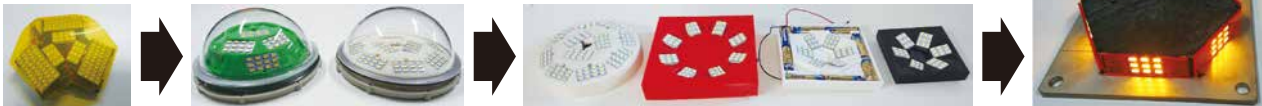
##### 共同研究にいたったきっかけ

現在、西日本では南海トラフ地震の発生が近づいていると言われております。被害想定は東日本大震災以上であり、ヘリコプターによる支援は夜間にも求められることとなります。しかし、全国の90%以上のヘリ離着陸場所には航空法の基準を満たした夜間照明は整備されていない状況であり、ヘリコプターの夜間受援体制は不十分な状況であります。整備が進まない理由の一つに高額なコストがあげられます。また1か所に常設型夜間照明を整備しても他のヘリコプター離着陸場では使用できません。そこで実際に災害時のヘリコプター支援活動の経験がある、ヒラタ学園（ヘリ運航会社）として使用者にとって利便性の高い、安価な可搬型ヘリポート夜間照明を開発しようと考えました。開発に当たっては、ヒラタ学園と災害時のヘリコプター支援の契約を行っている日清医療食品様などの協力のもと、岐阜大学工学部様とともに試行錯誤を繰り返し、開発することができました。

##### 共同研究の内容・成果

今回の共同開発の主なポイントは、実際に災害等の現場で夜間にヘリコプターを受け入れる立場の方々の要求をどこまで実現できるかということにありました。今回実現できた成果としては以下の3点でした。

①薄型（超フラット化実現 高さ3cm 高輝度 LED） ②軽量化（既製品の1/3の重量） ③リモコン機能→17個を一括に点灯・消灯  
④乾電池式→8時間以上使用可能 薄型+軽量化により1つのケースに全て収納可能で一人で持ち運びできるようになりました。価格に関しても既製品より安価に設定することができたため、販売開始から既に地方自治体、民間企業などからの注文が順調に増えてきている状況であります。今後、懸念される南海トラフ地震などの大震災時においても、ヘキサゴンを使用すればヘリコプターが24時間支援可能となり多くの命が救われることとなります。ヒラタ学園は、可搬型ヘリポート夜間照明「ヘキサゴン」がひとつの知恵の結晶として、人命救助に貢献ができる日が来ることを信じてやみません。



##### ご担当者のコメント



学校法人ヒラタ学園航空事業本部 HEMS課長 小笠原 健太 様

私は主にドクターヘリなどの航空機運航に係る事業展開を中心に活動して参りまして、このような製品開発には携わったこともありませんでした。最初はこのプロジェクトがうまく進むのかと大きな不安がありました。2020年2月に完成し4月から正式に販売開始することができました。約1年数か月を費やして製品化されたヘキサゴンを購入いただいたお客様からも「使いやすく、設置が簡単で保管が便利です」との声をいただくことができ、非常に喜びを感じることができました。今回はヒラタ学園としても初めての経験であり、製品開発の中では特に物作りに対する強い信念を感じることができ、常に本気で最善最良を求める姿勢も感じました。今後も社会に貢献できる製品づくりの機会があれば積極的に取り組んで参りたいと思います。

##### メディア掲載

日本経済新聞2020年2月19日、産経新聞2020年2月19日、中日新聞2020年2月19日、中部経済新聞2020年2月19日、日経産業新聞2月25日、サンテレビ2020年2月19日、中日新聞プラス2020年2月19日



岐阜大学 工学部機械工学科 知能機械コース 松下 光次郎 准教授

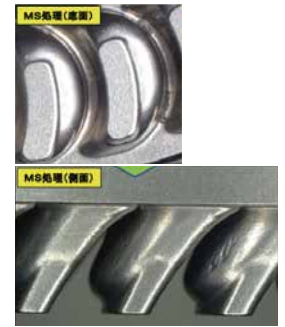
共同研究での開発ポイントは、普及し始めた先端技術を用いて、従来製品のコンセプトと違った新機能製品を作り出せるかにありました。その結果、従来製品がヘリコプターの風圧に飛ばされないためには重量を増やす設計指針をとっており、その理由が従来の厚みのある電球を起点とした構造であることに気が付きました。そのため、軽量かつ風圧に強い構造をここ10年で普及したLEDで作出し、従来製品よりも低消費電力・軽量・運搬しやすい可搬型ヘリポート用夜間照明灯を実現するに至りました。このように、新たに普及している先端技術で、従来製品と異なる設計指針でより良い製品を作り出せる実例ができたことをうれしく思います。

## 4 「革新的な表面処理の共同研究開発」

**産** 株式会社エムエス製作所  
愛知県清須市春日立作54番地2  
資本金3,811万円 従業員40名

**学** 岐阜大学  
工学部機械工学科 機械コース  
上坂 裕之 教授

  
**MS PROCESSING**  
(エムエス・プロセッシング)



### 株式会社エムエス製作所

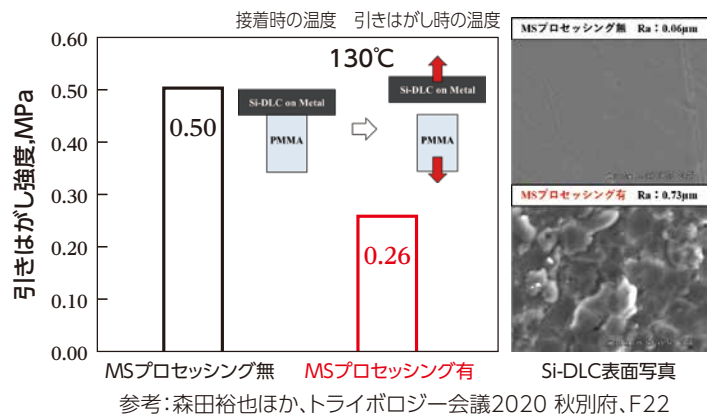
#### 共同研究にいたったきっかけ

本社所在地の清須市で50年、我が社の主力製品である金型を製作してまいりました。金型を使用して成形という工程で製品を取り出すのですが、長年悩まされていたのが離形の問題、成形材料の流れの問題が金型にあると言われてきました。何か解決が出来ないかと考えてトライをしたのが表面処理による離形性向上でした、様々な表面処理をトライをしてまいりましたが、工期がかかる、コストが高価などもある為に自社で必要と考えている表面処理が出来ないか検討を進める事にしました。そこで岐阜大学工学部の上坂教授に相談をさせて頂き共同開発で進める事になりました。開発に携わっていただいた工学部の上坂教授、高橋助教、森田さん(M2)、及び研究推進社会連携機構の深川特任教授(当時)には大変お世話になりました。

#### 共同研究の内容・成果

金属製品の表面への硬質微粒子の投射により、高分子材料との接触界面における力学的な相互作用(付着、摩擦など)を制御できることに着目し、特に高分子材料の成形金型表面へ当該技術を適用した場合に、一定の条件下で最も効果を発揮することを明らかにしました。これは一つの条件設定ではなく、複数の条件バランスによって成立するものですから、その作用メカニズムを解明することに大学と共に取り組んできました。例えば、右図に示すように、MSプロセッシング処理を行った金型材料に押し付けたPMMAを引き剥がす際の力は、無処理の金型材料に押し付けたPMMAを引き剥がす力の半分程度でした。この要因として、MSプロセッシング処理によって金型材料とPMMAの接触面積が減ったためであることが示唆されています。これにより不良品が減り無駄なコストや手間を削減でき、金型の質の向上が製品のクオリティも高める、新たな可能性を感じられる表面処理となりました。

#### アクリル樹脂(PMMA)と炭素系硬質材料(Si-DLC)を被膜した金型材との付着界面の引きはがし強度



#### ご担当者のコメント



営業部 諏訪 裕吾 様

鉄の摺動性(すべりやすさ)の良さが、金型成形時の離形性にも良い影響を与えるだろうということはわかっておりましたが、プラスチックなどの固い樹脂を成形する際にはそれがあてはまるものの、私たちが主力とするゴム製品などの成形時にも良い結果をもたらすのか不透明であり不安でした。岐阜大学との共同研究を通して金型表面処理の条件出しをくりかえすことで、安定して離形性の良さを実現できる表面処理条件を見つけ出すことができました。

#### メディア掲載

中部経済新聞2019年8月23日、PRTIMES2019年8月20日、日刊工業新聞「新製品情報誌」2019年10月号



岐阜大学 工学部機械工学科 機械コース 上坂 裕之 教授

すでにエムエス製作所さんは、現業でMSプロセッシングを最適化し、商売につながられています。そのベースとなる新しい技術への探求心や技術開発力に感服するとともに、作用メカニズムを明らかにすればより多くの方が活用できて、エムエス製作所さんのビジネスチャンスもさらに拡大するのではないかと考えています。上記のような基礎的研究成果の積み重ねにより、金型表面の質を向上させることのメリットが誰にでもはっきりとわかるようになってきています。当該処理の新たな可能性が広がっていくことにワクワクしながら、楽しんで共同研究をさせて頂いております。

岐阜大学  
高等研究院

# 微生物遺伝資源保存センター (GCMR)

## センター概要

特定病原体から日和見病原体まで病原細菌を中心とした網羅的な細菌コレクションを、遺伝資源として保全するとともに、有効利用のための分譲業務を行っています。

## センター長 あいさつ

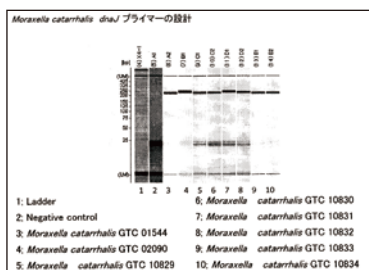
感染症原因菌の研究や診断法の開発などに病原細菌は必ず必要になります。病原細菌は、病院などで感染症の患者さんから検査のために日々検出(分離)されていますが、診断後は多くの場合、滅菌廃棄されます。研究などのために、とある菌種を使いたい、と思ったとき、その病原細菌を入手することは、容易ではありません。当センターの業務は、岐阜大学が行う社会貢献であり、社会的な研究基盤として多種多様な病原細菌を保管・整備し、分譲しています。研究・開発の資源として、広く有効活用していただき、ひいては医療の発展・健康維持やより良い生活の実現に繋げていただければ幸いです。

GCMRは、ヒト(一部動物)の感染症から分離される病原細菌約20,000株を保有しています。特定病原体から日和見病原体まで、病原細菌を網羅的に保有し、特に呼吸器感染症、消化器感染症病原体については、野生株も多く保有しています。細菌の取扱いに不慣れ、取扱が困難なユーザーの方には DNA分譲、培養代行も行っています。

## 病原細菌コレクションの用途

- 研究の題材として
  - 強毒株・流行株の同定
  - 病原因子の同定・病原機構の解明
  - 薬剤耐性因子の同定・耐性機構の解明
- 教育用 学生実習、技術者研修
- 診断法の研究・開発
  - 病原菌・病原因子・薬剤耐性因子・抗原検出等による鑑別・診断
  - 迅速診断ツールの開発
- 治療薬・静菌剤・消毒薬の開発・評価
- 食品衛生管理

## 成果事例1 核酸クロマトグラフ法を利用した肺炎原因病原体の検出キットの開発



製品化



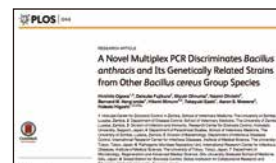
市中肺炎の主な原因菌である5菌種(肺炎球菌、インフルエンザ菌、マイコプラズマ、レジオネラ、クラミジア)を約3時間で一度にスクリーニング(検出・同定)可能

同一種についてGCMRの複数分離株を使用し設計プライマーの評価を実施

## 成果事例2 炭疽菌および高病原性セレウス菌のMultiplex PCRによる検出法の開発

Published: March 16, 2015

<https://doi.org/10.1371/journal.pone.0122004>



問い合わせ先

岐阜大学高等研究院 微生物遺伝資源保存センター

〒501-1194 岐阜市柳戸1-1

TEL 058-230-6146 FAX 058-230-6154 MAIL [g\\_cmr@gifu-u.ac.jp](mailto:g_cmr@gifu-u.ac.jp)

HP [https://www1.gifu-u.ac.jp/~g\\_cmr/index.html](https://www1.gifu-u.ac.jp/~g_cmr/index.html)





## ゲノム関連の研究と先端研究・技術開発を支える共同利用機器・受託解析サービスの提供

科学研究基盤センター・ゲノム研究分野は遺伝子実験施設として平成7年に発足し、令和2年度からは岐阜大学高等研究院に所属しています。当分野の教員は、ヒト遺伝性代謝疾患の診断や発症メカニズムに関する研究、植物病原性糸状菌の感染機構に関する研究など、ゲノム（遺伝子）を中心とした研究を行っています。

また、当分野は専門性の高い共同利用機器を複数保有しており、利用者の方にはそれらを使った高度な解析を行っていただけます。機器の操作方法や解析サンプルの前処理などの実験方法については定期的

な講習会を開催しており、その他にも随時個別相談を受けつけています。また様々な受託解析サービスも行っており、迅速でハイコストパフォーマンスな研究開発環境を提供しています。

科学研究基盤センター内には工学系分析が専門の機器分析分野や動物実験が専門の動物実験分野などもあり、それらの分野とも連携してより幅広い研究領域をカバーできる体制を整えています。研究開発でお困りの方は、ぜひ一度お気軽にご相談ください。

ゲノム研究分野では遺伝子解析や化合物分析を中心に、いろいろな受託解析サービスや共同利用機器の提供を行っています。**学外からのご利用も歓迎いたします。**お気軽にご相談ください。

### ゲノム研究分野が提供するサービス・機器(抜粋)

#### DNAシーケンス・フラグメント解析・細菌の同定

- DNAシーケンサー (ABI Prism 3130/3500XL Genetic Analyzer) **\*受託解析サービス**

#### マイクロアレイによる網羅的遺伝子発現解析

- 遺伝子発現マイクロアレイ (Agilent Array Scan) **\*受託解析サービス**

#### リアルタイムPCRによる遺伝子発現定量解析

- リアルタイムPCR装置 (ABI Step One Plus)

#### 微量物質の定量・構造解析・バイオマーカーの探索など

- 液体クロマトグラフィー質量分析装置 (Waters Aquity UPLC XevoQTof)

#### 細胞や微粒子の分類と回収、定量解析

- フローサイトメーター セルアナライザー (SONY EC800)
- フローサイトメーター セルソーター (SONY SH800)
- イメージングサイトメーター (GE InCell Analyzer 2200)

#### 創薬スクリーニング・細胞毒性試験

- イメージングサイトメーター (GE InCell Analyzer 2200)
- マルチラベルプレートリーダー (Perkin Elmer ARVO sx, ARVO sx-DELFI A)



DNAシーケンサー  
ABI 3500XL



リアルタイムPCR  
ABI Step One Plus



LC-MS Waters Acquity  
UPLC-XevoQTof



共焦点レーザースキャン顕微鏡  
Carl-Zeiss LSM710



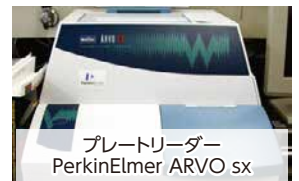
フローサイトメーター  
SONY EC800



蛍光実体顕微鏡  
LEICA MZ10F



分光光度計  
GE Ultrospec2100 pro



プレートリーダー  
PerkinElmer ARVO sx



イメージングサイトメーター  
GE InCell Analyzer 2200



マルチビーズバイオ  
アッセイ Millipore Luminex

ご利用方法・料金・その他お問い合わせ

## 岐阜大学高等研究院 科学研究基盤センター・ゲノム研究分野

管理室

TEL 058-293-3171 MAIL mgrc@gifu-u.ac.jp

HP <https://www1.gifu-u.ac.jp/~lsrc/dgr/portal/>



## 展示会等開催・出展報告

### 岐阜大学産学連携フェア・地域交流協会「秋の特別講演会」開催

日時	令和2年10月30日(金) 10:00-16:40
場所	岐阜大学講堂 (Zoomによるオンライン配信)
内容	今年度は、岐阜大学フェアと同時開催になり、下記の4部構成で開催いたしました。 第1部 岐阜大学フェア 「岐阜県・岐阜大学の連携プロジェクト」 第2部 岐阜大学フェア 「産学金官連携人材育成定着プロジェクト」 第3部 産学連携フェア 「岐阜大学 地域展開ビジョン2030」 第4部 地域交流協会・秋の特別講演会「3Dプリンタの創作と知的財産権 (快友国際特許事務所 弁理士 小玉秀男氏 右写真)



### イノベーションジャパン2020(オンライン開催) 出展

日時	令和2年9月28日(月)～11月30日(月)
場所	Webによるオンライン開催
内容	例年、東京ビッグサイトで開催されていましたが、本年度はWeb上での開催となりました。本学は、竹森洋教授(工学部)、小林信介准教授、鈴木優特任准教授、高井千加助教、隈部和弘助教(いずれも工学部)、稲垣瑞穂准教授(応用生物科学部)、金子洋美助教(医学部)、和佐田裕昭教授/澤田研究員(地域科学部)の8件の研究成果を出展いたしました。開催期間中に岐阜大学の出展サイトには、のべ3730人の閲覧(訪問)がありました。



### アグリビジネス創出フェア2020(オンライン開催) 出展

日時	令和2年11月11日(水)～11月13日(金)
場所	Webによるオンライン開催
内容	例年、東京ビッグサイトで開催されていましたが、本年度はWeb上での開催となりました。本学は、竹森洋教授(工学部)、島田昌也准教授、勝野那嘉子准教授(応用生物科学部)の3件の研究成果を出展し、オンラインプレゼンテーションも行いました。期間中には4件の技術相談があり、Web会議方式にて面談対応しました。

## 主な行事予定(2月～5月)

### 産学連携クリーンテック技術展

日時	令和3年2月25日(木)～2月26日(金) 13:00-17:30
場所	Webによるオンライン開催
内容	工学部 早坂助教の「アンモニアを原料とした高純度水素製造デバイスの開発」研究を出展

### 岐阜大学地域交流協会 総会・記念講演会 開催

日時	令和3年5月27日(木) 14:00-18:30
場所	じゅうろくプラザ(岐阜市橋本町1丁目10番11号)
内容	令和3年度総会、記念講演会、協会フォーラム・交流会

## 岐阜大学の産学官連携事業に関する お問い合わせ・ご相談等のワンストップ・ウィンドウ

TEL.058-293-2025 FAX.058-293-2022 E-mail:sangaku@gifu-u.ac.jp

私たちがお手伝いします。

産学官連携推進部門長・教授(工学部)

神原 信志

副部門長・准教授(高等研究院)

上原 雅行

副部門長・特任教授

神谷 英昭(弁理士)

産学連携コーディネーター

市浦 秀一 藤井 栄治 那脇 勝  
吉本 孝志 坪井 成吉

【文部科学省EDGE-NEXT担当】

横井 祐一 藤田 一寛

総合相談窓口

産学官連携推進部門

東海国立大学機構岐阜大学  
学術研究・産学官連携推進本部  
産学官連携推進部門

産学連携ナビ



岐阜大学 産学連携ナビ

検索

<http://www.sangaku.gifu-u.ac.jp/>



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立  
大学機構



岐阜大学

産学官連携推進部門

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1